

< H6-5-A : 問題 >

次の文は対空標識設置作業について述べたものである。**間違っているものはどれか。**

- 1 . 対空標識は、あらかじめ土地の所有者又は管理者の許可を得て設置する。
- 2 . 上空視界が得られない場合は、樹上等に偏心して設置することができる。
- 3 . 基準点が確認できない場合は、点の記から基準点の位置を推測して対空標識を設置する。
- 4 . 対空標識板の色は白を標準とし、状況により黄色又は黒色とすることができる。
- 5 . 対空標識設置完了後は、設置点付近の見取り図を作成し、地上写真の撮影を行う。

< H6-5-B : 問題 >

平坦な土地を測定した縮尺 1/12,000 の鉛直空中写真上に煙突が明瞭に写っている。煙突の像の長さを測定したところ、2.5mm で、写真の鉛直点から煙突までの長さは 90mm であった。煙突の高さはいくらか。次の中から選べ。ただし、航空カメラの画面距離は 15 c m、画面の大きさは 23 c m × 23 c m である。

- 1 . 42m
- 2 . 44m
- 3 . 46m
- 4 . 48m
- 5 . 50m

< H6-5-C : 問題 >

画面距離 15 c m、画面の大きさ 23 c m × 23 c m の航空カメラを用いて標高 100 m の平たんな土地の鉛直空中写真を撮影した。この写真上に明瞭に写っている点 A 及び点 B の 2 地点間の距離を測定したところ、密着写真上では 152 m m、縮尺 1/25,000 地形図上では 122 m m であった。このとき、平均海面からの撮影高度はいくらか。最も**近い**ものを選び。

- 1 . 3,070 m
- 2 . 3,080 m
- 3 . 3,090 m
- 4 . 3,100 m
- 5 . 3,110 m

< H6-5-D : 問題 >

次の文は、解析図化機について述べたものである。**間違っている**ものはどれか。

- 1 . 残存縦視差の量を数値的に把握することができる。
- 2 . レンズのひずみや、地球の曲率の補正を容易に行うことができる。
- 3 . 解析法による空中三角測量ができる。
- 4 . 写真から直接、コンピュータによる全自動図化ができる。
- 5 . 図化対象を直接、数値データとして磁気媒体に記録することができる。